講座:「歴史学を学ぶには」

施設見学:一次整理室、特別収蔵庫(木器などの保管場所)、科学分析室の順で

遺物に触れる:金箔瓦に興味深々です。

朝日遺跡:東海地方最大級の弥生時代の集落遺跡。清須市から名古屋市西区に広がる。昭和46年には遺跡内にある弥生時代前期の集落が所在する貝殻山貝塚(かいがらやまかいづか)が国の史跡に指定され、平成24年には遺跡から出土した遺物、2028点が国の重要文化財に指定されている。

清洲城下町遺跡:清須市に所在する五条川中流域に形成された自然堤防と後背湿地上に立地する古代から近世の複合遺跡。特に戦国時代から江戸時代初めにかけて城下町がつくられ尾張地方の政治の中心となった。今回用意した遺物は16世紀、信長の子、織田信雄(おだのぶかつ)のころのもの。

石座神社遺跡　:新城市の豊川中流域に立地する。弥生時代後期、古墳時代前期の集落遺跡。表土直下より鉛製
鉄砲玉が5点採取されたが長篠の戦いで用いられたと考えられている。

長篠の戦い　:1575年、織田・徳川連合軍と武田勝頼の戦い。織田・徳川軍は鉄砲を主力として用い、武田軍の騎
馬隊を破った。長篠・設楽原の戦いともいう。

愛知工業大学附属中学校で出前授業を実施しました。

10月21日（土曜日）、愛知工業大学附属中学校で出前授業を行いました。

今回は2年生3クラス106名が参加しました。
初めに**学校周辺の遺跡の説明**を行い、古墳時代から中世まで周辺には陶器を焼く窯が多くあったことを説明すると、身近な場所に遺跡が存在していることに多くの生徒たちが驚いていました。
次に行ったのは、**「出土遺物に触れる」**です。今回は**朝日遺跡（清須市他）等から出土した弥生土器を中心とした遺物**と**清洲城下町遺跡（清須市）、石座神社（いわくらじんじゃ）遺跡（新城市）から出土した戦国時代の陶器**等が主役です。生徒たちは弥生時代の赤彩土器（せきさいどき）のあでやかな色や甕（かめ）が非常に軽いことに驚いたり、円窓付土器（まるまどつきどき）をみながら、穴の意味についてさかんに語り合っていました。戦国時代の遺物では茶の湯に使う天目茶碗や水鳥、雀、猿、猪等の動物の意匠をかたどった水滴（すいてき）を手に取って使い方を考えたり、石座神社遺跡から出土した火縄銃の弾をビニール袋越しに触れて、その重さを実感したりしていました。
最後に106名の生徒が2グループに分かれて、交互に火起こしと拓本を行いました。火起こしでは6つのグループに分かれて各々がチャレンジしましたが、当日は生憎の雨のため湿度が高い性か、どのグループも非常に苦労していました。一方、拓本ではうまく土器の文様を写すことに苦労していましたが、拓本がラミネートフィルムでパックされ栞（しおり）になると、どの生徒も満足気に笑みを浮かべていました。

出土遺物の解説

弥生土器に触れる

戦国時代の陶器に触れる

火おこし体験

拓本体験　栞の出来上がり

当センターでは学校、講座等で遺跡から出土した土器等をつかっての出前授業、講座を行っています。ご希望の組織の代表の方は下記の連絡先に連絡ください。受付は年末年始を除く平日の午前9時から午後5時までです。

愛知県埋蔵文化財調査センター　連絡先　0567-67-4164
担　当　佐藤・鵜飼

平成29年度全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会・第30回研修会に参加しました

調査研究課の岡田です。

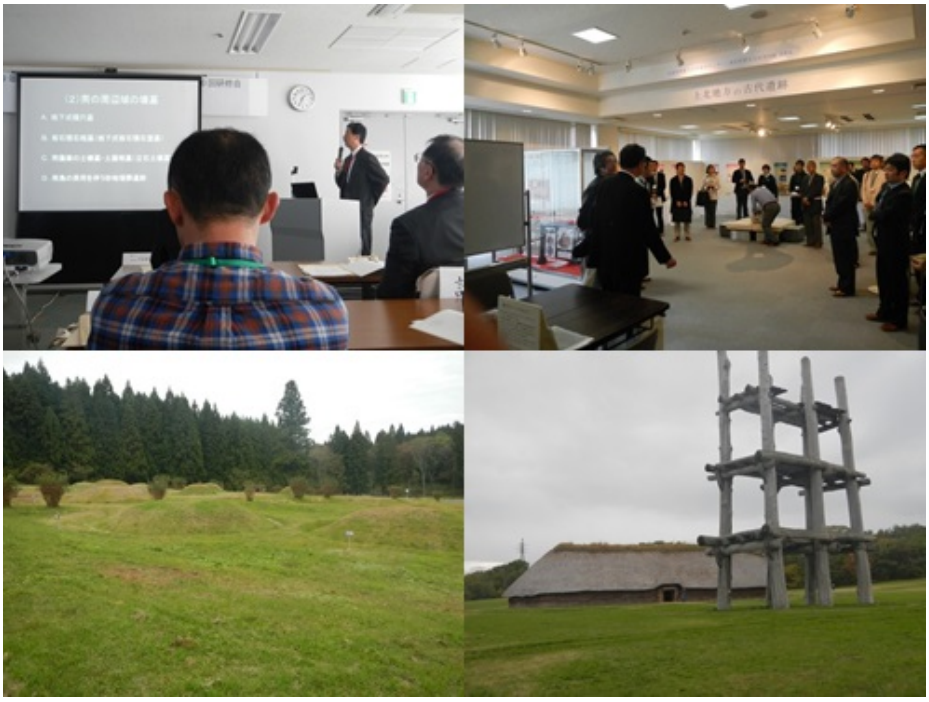
10月18日から20日まで、事前視察も含め、平成29年度全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会・第30回研修会に参加するため職員2名で青森市まで行ってきました。すでに青森は肌寒く、建物の中では暖房がたかれていました。

18日は名古屋駅を8時に出発しましたが、新青森に着いたときには午後2時を過ぎていました。そのまま青森県埋蔵文化財調査センターを訪問し、連絡協議会の準備や運営の仕方を教えていただきました。さらに館内も案内していただきました。センターを去る時にはすっかり日が落ちていましたが、センターの職員の方は最後まで暖かく見送ってくださいました。

翌朝19日、8時30分には連絡協議会の会場に向かい、会場設営・準備の様子を見せていただきました。そのまま午後1時からは研修会に参加しました。主に蝦夷（えみし）の古墳とそこから見える生活様式についての講演で、地元に行かなければ聴く機会が得られないような貴重なお話でした。

最終日の20日はバスで青森県内の資料館・史跡をまわりました。東北町歴史民俗資料館では、愛知県では見られないような縄文土器を多数みることができ、今年開館したばかりのおいらせ町阿光坊（あこうぼう）古墳館、隣接する阿光坊（あこうぼう）古墳群では昨日の講演で挙げられた古墳の遺物や展示、実物の古墳を見ることができました。そして最後に訪れた三内丸山遺跡（さんないまるやまいせき）では復元された大型掘立柱建物（おおがたほったてばしらたてもの）、大型竪穴住居（おおがたたてあなじゅうきょ）を見学しその大きさに圧倒されました。

かなり忙しい日程でしたが、来年度愛知県が全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会・研修会の主催県になるため大いに参考になりました。



上左：研修会の中の講演。

上右：東北町歴史民俗資料館で説明を聴きます。

下左：阿光坊（あこうぼう）古墳群。かなり整備され古墳は復元され歩道も設けられ園内を歩くことができます。

下右：三内丸山遺跡の大型掘立柱建物（おおがたほったてばしらたてもの）と大型竪穴住居（おおがたたてあなじゅう
きょ）大きさに圧倒されます。

阿光坊古墳群：青森県上北郡おいらせ町にある古墳群で国の史跡となっている。古代に蝦夷（えみし）と呼ばれた
人達の、首長の墓と見られている。

三内丸山遺跡：青森県青森市にある縄文時代の大規模な集落遺跡。住居群、倉庫群のほか、3層の高さを誇る大型
掘立柱建物が再現されている。

名古屋女子大学中学校で文化講座を行いました。

10月14日（土曜日）、名古屋女子大学中学校で文化講座を行いました。講座には名古屋女子大学中学校の1，2年生、73名が参加しました。

講師の紹介の後に、学校周辺の遺跡の紹介を行いました。学校の周りに多くの遺跡があり、学校がある辺りも萩山遺跡という古墳時代の遺跡があることを聴いて、多くの生徒は驚いていました。

次に行ったのは実際に遺跡から出土した土器や陶器などに触れる講座です。今回、用意したものは約2000年前の弥生時代の土器と約500年前の戦国時代の陶器等です。生徒は遺物に触れることで弥生時代や戦国時代の人々の息吹を感じていたようでした。特に戦国時代の鉄砲弾については、教科書や資料集にも紹介されている長篠合戦（ながしののかっせん）で使用されたものであることを紹介すると、教科書等に書かれている内容に関わる遺物を目の当たりにして生徒はびっくり。「こんなに小さいの？」「何でできているの？」「あたったら痛そう・・」と興味深く語り合っていました。

最後の講座は火起こし体験と拓本体験です。各学年に分かれ初めは1年生が火起こし、2年生が拓本、後に各学年交代しそれぞれの体験を行いました。

火起こしは各学年6つのグループに分かれ野外で行いましたが、昨夜までの雨で湿気があったせいか、煙が出るまでにどのグループもかなり苦労していました。それもあってか、煙があがるとグループ全員、大声をあげて喜びあっていました。

拓本では、弥生土器の文様をうまく出すことに苦労しているようでしたが、短時間に効率的に行おうとする工夫もみられました。出来上がった拓本はラミネートフィルムに挟み、世界に一つだけの栞（しおり）の完成です。生徒たちはお互いの栞を見せ合い、大満足していたようです。

学校周辺の遺跡

出土遺物に触れる

出土遺物に触れる（右・左とも）

当センターでは学校、同好会、サクール等へ出張しての文化講座、出前授業を行っています。ご希望する組織の方は下記の連絡先・担当に連絡ください。受け付けは平日（年末年始は除く）の午前9時から午後5時までです。

電話 0567-67-4164

担当 佐藤・鵜飼

長篠合戦（ながしののかっせん）：戦国時代の1575年、現在の新城市長篠・設楽原辺りで武田と織田・徳川連合軍が戦った合戦。織田・徳川軍が火縄銃の三段撃ちで武田の騎馬軍団を壊滅させたことで有名。平成19年から23年にかけて合戦場に近接した石座神社（いわくらじんじゃ）遺跡を発掘調査（新東名高速道路建設に伴う調査）した際に鉛弾が5点出土した。この鉛弾は合戦に用いられた火縄銃から発射されたものと思われる。

滋賀県立安土城考古博物館の方が、資料借用のため来館しました。

調査研究課の鵜飼です。

10月6日（金曜日）、滋賀県立安土城考古博物館の学芸員の方が、秋季特別展の展示に使用する遺物の借用のため来館しました。今回貸し出された遺物は、朝日遺跡（清須市・名古屋市西区）から出土した銅鐸（どうたく）・銅鏃（どうぞく）などの重要文化財、銅鐸形土製品（どうたくがたどせいひん）などです。

貸し出しの様子

平成29年度秋季特別展「青銅の鐸と武器　近江の弥生時代とその周辺」は平成29年10月21日（土曜日）から12月3日（日曜日）まで、滋賀県立安土城考古博物館で開催されます。滋賀県各地で出土した銅鐸や、朝日遺跡出土の重要文化財などを間近で見る絶好の機会です。ぜひお出かけください。

朝日（あさひ）遺跡：東海地方最大級の弥生時代の集落遺跡。清須市から名古屋市西区に広がる。昭和46年には弥生時代前期の集落が遺跡内にある貝殻山貝塚（かいがらやまかいづか）が国の史跡に指定され、平成24年には遺跡から出土した遺物、2028点が国の重要文化財に指定されている。

銅鐸形土製品（どうたくがたどせいひん）：銅鐸の形を模した小型の土製品。弥生時代の祭りに用いられたと考えられる。朝日遺跡からは17点が出土している。

享栄高等学校の土曜セミナーで講座を実施しました。

9月16日（土曜日）、享栄高等学校の土曜セミナーで講座「弥生時代を体感」を実施しました。参加者数は享栄高等学校の生徒、教諭、保護者の方も含め、20名にもなりました。実施したのは、「遺跡探訪」として「学校周辺の遺跡」、「体験その1」として「朝日に触れる」、「体験その2」として「火起こし体験」の3つの講座です。

「学校周辺の遺跡」では八高（はちこう）古墳など、学校周辺にある遺跡を紹介しましたが、参加した生徒は多くの遺跡が学校周辺にあることに驚いていました。

「朝日に触れる」では朝日遺跡等の発掘調査で出土した土器を、間近にみたり触れてもらいました。生徒たちは土器を手に取り、煮炊きに使用する甕の軽さに驚いたり、赤彩土器の鮮やかな赤色に感心したりしていました。

最後の講座では、2人1組で「火起こし」に挑戦！今回は火種まで持っていきます。10組中、火種まで持っていったのは6組でした。アンケートをみると、この「火起こし体験」が一番、参加者の印象に残ったようで、「火種まで持っていくのは難しかった」、「火種までいかなかったので、次また挑戦したい」などの意見がありました。

予定した120分はアッと言う間に終了し、生徒たちは最後まで展示している土器を名残惜しそうにみていました。

遺跡探訪　学校周辺の遺跡　受講風景

火起こし体験　その1

火起こし体験　その2

八高（はちこう）古墳：名古屋市瑞穂区に所在。名古屋市立大学の敷地内にある。全長70mの前方後円墳であるが、かなりの部分が後世の破壊をうけ原形を留めていない。

十四山中学校学校祭「文化講座」で出前授業を行いました

調査研究課の岡田です。

9月20日に**弥富市立十四山中学校学校祭「文化講座」**で出前講座を行いました。

学校祭の文化講座は会場ごと、いろいろな講座が用意され、その1つに私たちも参加しました。私たちの講座を選んでくれた生徒は1年生8名、2年生1名、3年生1名の10名でした。

前半は土器に触れてもらいました。用意した土器は主に朝日遺跡（清須市・名古屋市所在）から出土したパレス式土器の壺、円窓付土器（まるまどつきどき）の壺、廻間遺跡（はさまいせき）（清須市所在）から出土したS字甕などです。実際に土器を手に取り、「思ったより軽い！」「パレス式土器の文様はどうやってつけたのかな」「何に使ったのかな」と感想や疑問がたくさん出ました。

後半は「火起し体験」です。古代人と同様に、舞錐（まいきり）式の火起こしを使って火を起こします。慣れていないと難しい道具ですがさすが中学生、簡単に使いこなし煙が立ち上がります。ところが、ここからが難しく、なかなか火種ができません。結局2人2組で5人ずつ火起こしに挑戦しましたが、火種までできたのは1組だけでした。

短い時間でしたが、生徒も先生方も一緒になって楽しむことができました。講座の終わりに当センターで「秋の特別公開」を10月30日から行うことを伝えましたが、中学生の皆さんが来てくれることを楽しみに待っています。

上左：土器の説明を聞きます

上右：土器に触れさまざまな感想が出ます

下　：舞錐（まいきり）を使って火起しに挑戦！

朝日遺跡：東海地方最大級の弥生時代の集落遺跡。清須市から名古屋市北区に広がる。昭和46年には遺跡内にあ

る弥生時代前期の集落が所在する貝殻山貝塚（かいがらやまかいづか）が国の史跡に指定され、平成24

年には遺跡から出土した遺物、2028点が国の重要文化財に指定されている。

パレス式土器：朝日遺跡など弥生時代の尾張地方を中心に見られる出土した土器で、白地にベンガラの赤で鮮やかに

装飾された土器の通称。クノッソス宮殿の装飾を彷彿（ほうふつ）させるところからこのような名称が用い

られている。

円窓付土器：弥生時代中期後葉に用いられるようになる。土器の胴部に穴の開けられた土器。集落域と墓域との境や

方形周溝墓で出土が確認できることから、祭祀や儀礼に関する土器と考えられる。

廻間遺跡：清須市にある弥生後期から古墳時代の遺跡で、墳丘墓6基が発見された。そのうち1基が前方後方型墳丘

墓である。またS字甕が多く出土した。現在は埋め戻されている。

S字甕　:弥生時代末から古墳時代にかけて使われた煮炊き用の土器。台付S字状口縁土器で通称S字甕。甕本体

の下部に台がつき、口縁を折り曲げた形がS字に似ているためこのような名称がついている。

舞錐式火起こし:　横木の中央に穴を開け縦に棒を通し、横木の両端付近と棒の上端付近を紐で結ぶ。また棒の下部

にははずみ車をつけた道具を使って火を起こす方法。火を起こすときは紐を縦棒に巻き付け、横木

を上下に動かすことで縦棒が回転し、下に置いた木との摩擦で火が起こる。

9月14日　大府特別支援学校で出前授業を行いました

調査研究課の岡田です。

9月14日に大府特別支援学校で出前授業を行いました。

授業は2部構成で、前半は「主に奈良時代から平安時代までの主に食に関する土器」、後半は「愛知のお宝」と題して県内の遺跡から出土した遺物を多く見てもらいました。

前半では奈良時代にも使われていた「甑（こしき）」と「甕（かめ）」をセットで用意したところ、大変興味をもってもらうことができました。また、山茶碗（やまぢゃわん）を見せ、「これは大府特別支援学校のすぐそば、森岡（もりおか）1号窯跡（大府市）から出土したのだよ」と種明かしをすると更に盛り上がり、土器を手に取って見てくれました。

後半は更に興味津々。朝日遺跡（清須市・名古屋市）から出土した大きなパレス式土器の紅白のコントラストの美しさに魅かれたり、廻間（はさま）遺跡（清須市）から出土したS字甕とレプリカを持ち比べ、本物が薄くて軽いことに驚いていました。

授業の時間はあっという間に過ぎました。急いで片付けようとすると、噂を聞きつけたよそのクラスの生徒たちが走って来て興味深く土器を眺め手に取り、名残惜しそうに教室に戻って行きました。また、生徒だけでなく、多くの先生方にも見ていただくことができました。

生徒に喜んでもらえると私たちの励みになります。授業を行った私たちも大満足な一日でした。